

# ふるさと わがまち わが地域

## 河辺の人口、世帯



河辺自治会

平成27年10月末現在  
 世帯数 666世帯  
 人口 1,705人(男829人・女876人)  
 区事務所:京丹後市河辺408-4番地  
 区運営:常勤の区長、事務員



旧市街地を望む



国道312号線沿線に開ける河辺

## 河辺とは

河辺は竹野川の上流域右岸に位置し、河部(かわべ)とも書く。しかし、河辺(コウベ、またカワベ)は、竹野川との関係というよりも、集落の中央を西流する大谷川のほとりにある集落を意味することからの命名と思われる。事実、河辺集落はもともとこの大谷川を中心に発達して形成され、竹野川との関係性や親近性は位置的にも水利的にも薄い。池田末則は「川(河)をコ(コウ)と発音することは相当古い時代に遡るのではなかろうか」と述べている(『日本地名伝承論』)。一方、河辺の南に隣接する周枳に鎮座する大宮売神社の神戸郷の遺名とする説もある。『丹哥府誌』、『丹後旧事記』、『中郡誌稿』、『日本地理資料』などは、『和名抄』丹波郡神戸郷の遺名と伝え、大宮売神社の社領であったという。つまり、神戸から河辺へと表記が変わったとするものであるが、かつての丹波郡内にはほかに神戸を想起させる地名がないことから、説得力があると思われる。

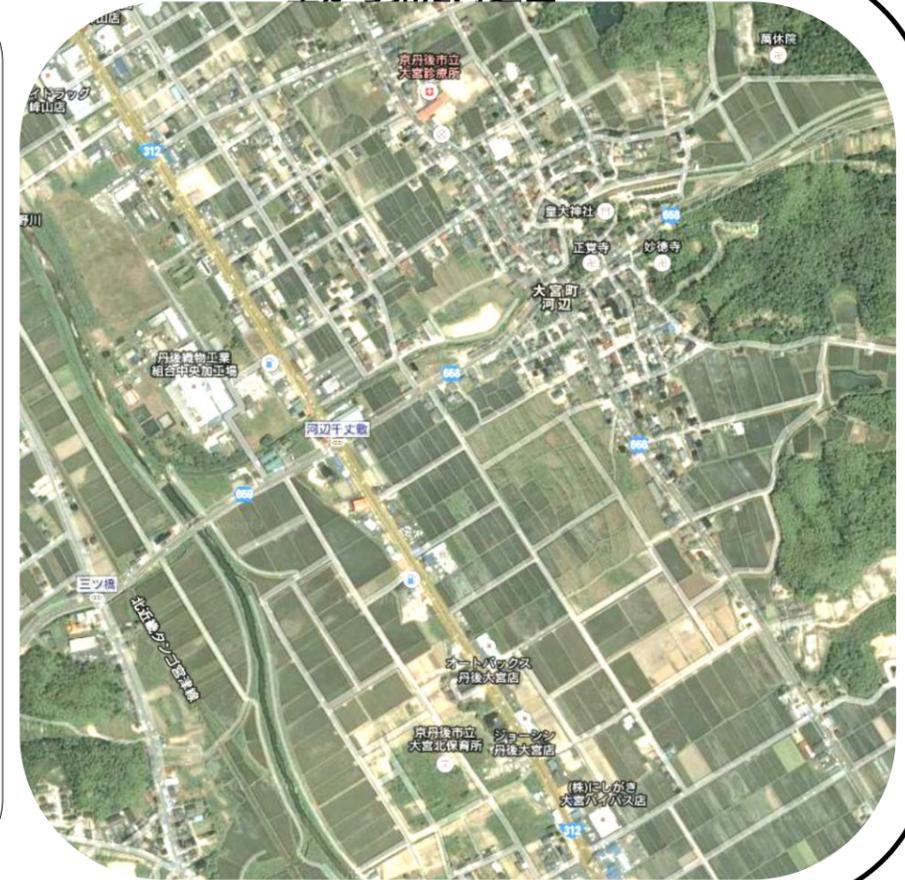
## 主な地域活動

区内には、自治会、公民館、河友会、自主防災会、青年会、千歳会(老人会)、村づくり委員会、笑遊会、河辺ふるさと振興会、農事組合、土地改良組合、地区社協などの団体、組織があり、互いに連携しながら、河辺地区の活性化のため活動を続けている。

## 主な行事

- 4月 さくら祭り
- 6月 大宮町体育大会  
大谷川草刈  
峯空園付近竹野川草刈
- 7月 ため池などの草刈  
(農地・水保全管理支払交付事業)
- 8月 河川公園納涼祭  
防災訓練
- 9月 敬老会
- 10月 秋祭り  
区民スポーツ  
レクリエーション大会

## 空から見た河辺区



# 河辺地域づくり計画

## 河辺の将来像 キャッチフレーズ

# 「生き生きと 住み継がれる地域づくり」



**1 農業を基軸として、経済が活気づく地域づくり**  
 基幹産業の一つとして続けられてきた農業を、河辺地区活性化の基軸において、仕事づくり・生きがいづくり・環境保全等地域の様々な課題解決を図ろうとするもので、新たな農業生産活動への転換と挑戦を積極的に進めていきます。

- 方策 ① 農地里山の保全  
 ② 新たな農業の仕組みづくりと地域ぐるみの営農体制



**2 働くことと生きる楽しさが実感できる地域づくり**  
 高齢化が一層進む中で、元気で生き生きと暮らす中高齢者づくりは、地域づくり計画実現のために必須要件であり、中高齢者の働く場づくりと生きがいづくりが両立する取組を、創意工夫を凝らして実施します。

- 方策 ① 公民館活動 ③ 高齢者・子育て支援  
 ② 生きがいづくり ④ 働く場づくり



**3 花と緑があふれる美しく住み良い地域づくり**  
 近年、宅地開発と商業地開発によって最も様変わりした河辺地域だが、特に生活環境、人間関係・コミュニティや地域活動においても、様相が一変し、郷土愛とか地域美化の意識低下は否めない状況となっている。将来に向けて、住んで良かったと思える地域づくりとして、美しくかつ住み良い生活環境づくりを第一に取組を進めていきます。

- 方策 ① 意識づくりと美化運動 ② 美しいふるさとづくり



**4 未来に向かって継承され発展する地域づくり**  
 今後、高齢化と少子化、合わせて若者流出による人口構成の変化等様々な課題に対応しながら、将来においても、名実ともに住み良い活気ある地区としてあり続けるために、既存の地縁団体としての組織機構、定款、運営等を見直し、時代の変化に即応した自治の確立を目指します。

- 方策 ① 区運営 ② 地域防災

## 大谷川

大谷を主な源流とする延長約4.9キロメートル、2級河川で、河辺地区を横断し、水道・農業の用水として重要な河川です。竹野川に注ぐ。平成19年、皇大神社の裏側に、京都府の財源によって河川公園が造成された。河川公園では毎年、納涼祭が行われている。



納涼祭の魚つかみどり



河辺河川公園



納涼祭のそうめん流し

## 皇大神社

元村社で河辺小字本城に鎮座。祭神は天照大日靈女命(あまてらすおおひるめ)、天照大神(あまてらすおおみかみ)＝皇大神と大宮比売命(おおみやひめ)。

延徳年間(15世紀)に河辺村白葛山(しろかざらやま)の頂上に皇大神の小祠を建立して祀り、その後白石山に遷し、白石大明神とともに祀る。天保元年(1830年)に小字千畳敷に遷座し、大宮比売とともに祀る。その後、昭和2年に村内すべての神社を小字船山に合祀して皇大神社としたが、間もなくそれぞれの神社を元の地に戻した。

皇大神社も千畳敷に戻ったが、昭和14年、千畳敷の地が海軍用地となったため、本城の現地に仮遷宮し、前記の各神社とも再び合祀した。昭和19年10月、新たな社殿を落成し、現在に至る。



皇大神社



本殿



手水舎

## 祭礼と太刀振り



太刀振りは皇大神社の秋祭に奉納される神事。明治時代に宮津の府中から伝承されたと伝わる。かつては10月9日を宵宮とし、10日を本祭りとしていたが、現在は10月の3連休中に行われる。

河辺の太刀振りは受け継がれているうちに、この河辺の地に住む人々のもつ独特の心意気や気質により、次第に現在みられるような、勇壮でメリハリの利いた、いわゆる男太刀とよばれるようになった。屋台には大太鼓と小太鼓を積み、屋台の前方には男松、後方には女松を飾る。また、白紙を細く切ったシデで太刀の両端を飾る。楽曲全体は大太鼓が主導し、力強い響きが重々しいきびきびとした動作を演出する。

河辺の太刀振りは、まさに真剣そのもので、振り子は終始、刀の切っ先から一時も目を離すことがない。楽曲を主導し、仕切る大太鼓とともに横笛がメロディーを奏でる。閉め太鼓(小太鼓)がメロディーをつなぐようにテンツクテンツクテンと打ち鳴らされる。

大太鼓を打つ人の、「イーヤ、ハー」の掛け声、そして、大太鼓がドンドンと決める音。太刀振りは1章から5章まであり、次第に技が高度になる。4章から5章までは紋付と呼ばれる人だけが振る。

衣装は、白鉢巻、そろいの袴袴に、たすき掛け、手甲、たつつけ(裁着袴・軽衫)を履き、白足袋、草草履。このようないでたちから、人々は一体、太刀振りに何を連想するだろうか。戦か、農耕か? 戦いに勝利し、凱旋する「ものふ」たちか、また、豊作を祝う人々だろうか。

100メートルにわたって繰り広げられる道振りは特に見物である。

先頭には露払いと呼ばれる青竹をもって振る人が先導する。

河辺の太刀振りは、少女たちの憧れの的である。



大門振り



## 丹後織物工業組合本部

丹後織物工業組合は、昭和38年4月(創立年月日 大正10年9月)に設立。本部が河辺3188番地に、また加工場が与謝野町と大宮町河辺(中央加工場)にある。

平成25年5月31日現在の組合員数は1,100人。

丹後は日本最大の絹織物生産地で、現在、国内で生産される和装用白生地織物(きもの生地)の約60%を生産している。

また京都・西陣の生産基地として帯、ネクタイ、インテリアなど先染織物の製織や、帯揚げ・半襟・風呂敷・ショール・スカーフなどの小物織物、広巾織機を使ったシルク服地・ポリエステル服地・その他シルク、ポリエステル、レーヨン、ウールなどを複合させた服地を製織している。



丹後織物工業組合中央加工場

## 峯空園



## さくら祭り



## 河辺石(コウベイシ)

コウベイシは河辺区の白石山(通称、おやま)に産し、峰山町の大路と並び国内における重要なベグマタイト鉱物、特に放射能鉱物の産地の一つ。

1950年(昭和25)に来丹し河辺を訪れた京都大学の田久保実太郎(たくぼじつたろう)教授らによって、確認された新鉱物。



河辺石(コウベイシ)

これら希元素鉱物はパーサイトと共生し、まれに煙色石英中にもある。周囲のパーサイトを濃紅色に着色し(放射線により)、粘土化を与えているため周囲は非常にもろくなっている。

## 霊松山萬休院(臨済宗天竜寺派)



本尊は久遠の釈迦如来



本堂



薬師・大師堂

## 宝林山妙徳寺(日蓮宗・身延久遠寺)



本尊は久遠の釈迦牟尼



本堂

## 道樹山正覚寺(浄土真宗本願寺派)



本尊は阿弥陀如来



内陣

